



4

卯月

宮前だより



一般

花

YA

いやしの動物たち

古典

いとをかし

～ 古典のお菓子～

『美しい和菓子の図鑑』



青木直己/監修
二見書房
383.87

12ヶ月の行事、神社や寺の御利益、古典文学、歴史上の人物や文豪にまつわる和菓子を、イラストや写真とともに350個紹介。和菓子に秘められた謎と人々の思いを解き明かす。

雅な和菓子たちにはどんな意味が込められていたのでしょうか。歴史・文学から紐解きます。

今月のテーマ
いとをかし〜古典のお菓子〜

古典特集



Topic

東京が舞台の物語

江戸が東京に改正され150年。近代文学から現代文学、果ては海外文学においても東京は物語の舞台として多く取り上げられています。大都会の象徴として、現代社会の鏡として、摩訶不思議の異境として。あなたのよく知る街の、知らない顔を覗いてみませんか？



『ラブ・ケミストリー』
喜多喜久/著
宝島社 ☆BGキ



『押絵と旅する男 乙女の本棚』
江戸川乱歩/著 しきみ/絵
立東舎 ☆913.6エ



『4 TEEN』
石田衣良/著
新潮社 ☆BGイ

4月 一般特集

今月のテーマ
「花」

春といえば桜の季節ですが、
他の花に目を向けてみるのはいかが？

展示期間: 4月5日~5月1日

『橘花抄』 葉室麟/著 新潮社913.6ハム

逆境にあっても己の信ずる道を貫く男。
父が自害に果て、光を失っても一途に
生きる女。黒田藩お家騒動に
翻弄されながらも守り抜いたものは…。



『はがきサイズで透明水彩
遊び感覚で学ぶ色彩と技法』

若葉恵子/著 日貿出版社
724.47

なにはともあれ
やってみる！と
思ったより上手く
描けたり…。
一度挑戦してみませんか？

『時平の桜、菅公の梅』

奥山景布子/著 中央公論新社
913.6オク

凡庸な貴公子・藤原時平と
孤高の秀才・菅原道真。
世代も身分も境遇も違う
ふたりの男が、
互いに魅かれあい、
そして離れていく…。
国の頂点を目指した男たちの
熱き闘いを描く。



Young Adult

APRIL
4

今月のテーマ

いやしの動物たち

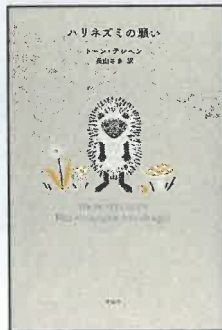
展示期間:4月5日~5月1日

春になって活発に動き出した動物たちの
カワイイ素顔や意外な生態、物語にいやされよう!

『ハリネズミの願い』

トーン・テレヘン/著 長山さき/訳
新潮社 ☆949テ

家に動物たちを招きたいハリネズミ。招待状を書きますが、自分の針で傷つけてしまったらどうしよう、と不安と妄想が渦巻いていって……?



今月の新着本

『キミの知らない恋の物語 トキメク~はじめての恋』

中田永一 加藤千恵 桜庭一樹 三浦しをん/著
瀧井朝世/編 ☆913.6タキ 汐文社

はじめて恋に落ちた時のときめき、喜び、切なさ、苦しさ…。中田永一「百瀬、こっちを向いて。」、三浦しをん「永遠につづく手紙の最初の一文」など全4篇を収録した、恋愛小説短篇アンソロジー。



みんなの広場

春キャベツ剥けば過ぎし日こぼれけり
菜の花や灯台までの空の青
沈丁の香るや夜深きより

千楓

鳩がそつと寄り添ってくれた街にゐる
春寒や里芋じやががいも大和芋
灰皿に二人で置いたさくらんぼ

雪ノ下青観

春風や君屋上へ連れ出して
粥掬ふ重き匙かな百千鳥

音々

一網打尽健気に生き延び荃花に
早春の芽吹き鮮やか門出かな
かあさんと娘上出来見えておくれ

小戻心丸

遠き日の「ゴルゴダの丘に 彼立てり
苦悩の世を生き 逃げない背中

ともえ

やくそくがほのかに光るもりのなか
いつの日かわたしの言ったひとりごと
テーブルにおかれた皿をうらがえす

しょう

木々の先つぼみ揺らゆら春の鈴
下萌ゆるほんのり苦いごあいさつ
桜餅宵待ち歩き頬ばるの

秋野夜泣吉

レゴが好きみんなとあそぶ楽しいとき

ひよひよ

! 投稿募集中!
川柳、俳句、短歌、詩など
形式自由!
投稿ポストは館内入って
左のテーブルと
2階のカウンター等にごさいます。
(△書面の都合上掲載していないもの
もごさいます。ご了承ください。)

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3 おはなし会	4 休館日	5	6 わらべうた
7	8	9	10 おはなし会	11	12	13
14	15	16	17 おはなし会	18 休館日	19	20 あかちゃん おはなし会
21	22	23	24 おはなし会	25	26	27
28	29	30				

- 17時閉館

季節の言葉

やまわらう【山笑う】

春の山の草木がいつせいに若芽を吹いて明るい感じになり、山そのものが笑みを浮かべているようだという様子。

出典は、中国宋代の頃の画家・郭熙の「春山淡冶（たんや）にして笑ふが如く」といわれている。春の季語であり、多くの俳人の句に詠まれている。

故郷やどちらを見ても山笑ふ 正岡子規

